



School Data  
〒392-0004 長野県諏訪市諏訪 2-13-1  
学校長 脇坂 隆夫 児童数 281名

活用のポイント

1. 授業と家庭学習を結ぶ教材として活用する
2. 学習習慣を身に着ける「ドリル週間」の設定
3. アイテムの解答解説を読むことも習慣の中に

企画: 次世代教育推進機構 for Education of next Generation 発行: 教育開発出版株式会社

「授業」と「家庭学習」を結ぶ教材 ～アイテム算数～

長野県 諏訪市立高島小学校

今回、諏訪市立高島小学校様で開催された「諏訪市家庭学習の手引き（職員版）」に準拠した授業改善のための公開授業研究に参加してきました。同校では今年度、アイテム算数を4～6年生で活用いただいています。授業と家庭学習のつなぎ方、その中で息づくアイテム算数について、植松 航一朗教頭と授業者である大畑健二教諭にお話を伺いました。



植松 航一朗教頭

「授業改善」と「家庭学習」

諏訪市では以前から小中学校毎に「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習を行ってききました。平成24年度より、学校間の垣根を取り払い、家庭学習ノートの交換等の情報交換を行いながら、どの学校でも確かな学力が身に付き、小中連携を図ることができるような「家庭学習の手引き」の作成を目指すことになりました。見直しをする際、家庭学習の内容をただ見直すのではなく学習指導要領に準拠した授業改善を図りながら家庭学習へつなげていき、家庭学習で得た成果や課題を授業に還元することで学び続ける力を付けていくことを目指しました。また、保護者の方々にも、日々の授業の内容を把握してもらいながら家庭学習への協力をお願いすることに効果

があります。子どもたちを取り巻く学びの環境全体を関係付けて、授業改善を軸に家庭学習やドリルの目指す方向を市内の全ての小中学校で共有することを考えました。

「数学的な考え方」を育む

「子どもたちが、数学的な考え方（もとになる考え方）を言葉にして共有し、活用して解が正しいことの理由を説明できる授業」これが高島小学校の目指す授業です。子どもたちが「できる」ことを優先するのではなく、「わかる」からこそ「できる」と、実感を伴って理解できる授業にすることです。今日授業でも、「式はできたけれどしっくりこない！なんかスッキリしない！」と言ってずっと考え込み、悩んでいる子がいました。子どもたちが「できる」を目指すのではなく「わかる」を目指し、お互いの悩みを受け止めて、子どもたちが「分かる」授業です。子どもたちは、理由や根拠、きまりや法則に目を向けて、「なぜ、できたのか」についてじっくりと考えるようになりましたね。

「アイテム」との関わり

アイテム算数の特に文章問題には、「説明しましょう」「分かったことを書きましょう」という事実、手順、理由の説明を問う問題が多くあります。本校では、このような問題は授業とのつながりなくしては解けないですね。子どもたち自身、授業と家庭学習がここでつながっているという事がアイテムを使うとわかります。そしてなぜこの宿題（アイテム）が大事なのかという意義を、保護者の方に子どもたちが伝えていきます。授業と家庭学習を結ぶよい教材になっていると思えます。また、子どもたちの理解の段階に合わせて選択して課題を出したりもしています。

H26.11.25(火)  
諏訪市家庭学習の手引き(職員版)に準拠した授業改善のための公開授業研究  
高島小学校 教頭 植松航一朗

- 1 本授業の特徴
  - 算数科における児童の実態把握
    - 2学年の単元『かくれた数はいくつ』で「時間をまきもどして考える」から繰り返し活用しはじめる子どもが生み出した数学的な考え方(もとになる考え方)が長野県教育委員会教育課程学習指導要領(数学編p.61)の活用状況を把握することが、算数科における児童の実態を把握することです。
    - 「家庭学習での保護者からのコメントを受けて設定した復習」や「宿題の答え合わせ」を通して、本時の軸となる数学的な考え方(もとになる考え方)を「学び直し」した姿を把握することです。
- 2 算数科教材研究のポイント
  - 「順に順して」考える思考法の体験
    - 3要素2段階逆逆の問題の構造を関係図に表して数量関係を把握します。今までの学習問題は、時間の経過に沿って題意を捉えてきました。しかし、2学年の単元『かくれた数はいくつ』(p.53)で出会った「花が、きのう8こさいいました。今朝は25こになっています。何こふえましたか」の間から、「時間をまきもどして考える」という時間を遡る考え方を活用してきています。まず、時間の経過に沿って要素や条件を関係図に表します。それから、逆の演算操作により「順に戻す」のです。逆の演算操作を子どもの生活と重ねると、「ピザを巻き戻すイメージ」だと考えました。そこで、子どもたちと「時間をまきもどして考える」を言葉にして数学的な考え方を共有します。こうして、動きを伴ったイメージに沿って、それを逆の演算として表現することにより、実感を伴って理解することにつながると考えました。

